



品質性能試験報告書

試験結果は以下のとおりであることを証明する。
平成18年 2月 2日

財団法人 建材試験センター
中央試験所長 勝野 幸
埼玉県草加市稲荷5丁目2番20号



試験名称	木造住宅用基礎に使用されるアンカーボルトの性能試験						
依頼者	会社名：株式会社 カ ナ イ 所在地：埼玉県八潮市西袋717-1						
試験項目	引張						
試験体 記号	商品名：レフォメーションアンカーボルトM12×320						
	アンカーボルト			木造住宅用基礎			本数
	形状及び寸法 mm	材質	表面処理	コンクリート		鉄筋	
RA-250 -1~3	全長：320 埋め込み深さ：250 ねじ部：M12 軸部：φ10.6	SWRM 8 (JIS G 3505)	Ep-Fe/Zn 5/CM2 C (JIS H 8610及び JIS H 8625)	寸法 mm	圧縮強度 N/mm ²	試験時 圧縮強度： 19.7N/mm ²	3
試験体 (依頼者 提出資料)	<p>(注) 1. 記載内容は、依頼者提出資料による。 2. 木造住宅用基礎は、基礎の立ち上がり部分を対象（以下、基礎相当材という）としたものであり、鉄筋コンクリート造で製作されている。 3. 表中の試験時圧縮強度は、試験体から採取したコア3本の平均値を示す。 なお、圧縮試験方法は、JIS A 1107 による。</p> <p>参 照：図-1 及び 図-2 (試験体) 表-1 (コンクリートの調合) 表-2 (アンカーボルトの引張材料強度試験結果)</p>						
試験方法	試験概要	図-3に示すように、基礎相当材上面に鋼製の反力台を設置（反力台の内法支持間距離：アンカーボルト埋め込み深さの2倍）し、アンカーボルトにカプラー及び加力用鋼棒を取り付けた後、油圧ジャッキ、球座、ロードセル等を介して鉛直方向の引張荷重を破壊に至るまで連続的に加えた。この間、アンカーボルトの上下方向絶対変位（アンカーボルト自身の伸びを含む）を測定し、かつ、ひび割れの状況を目視観察した。					
	加力装置	センターホール型油圧ジャッキ、球座、加力用鋼棒及び反力台					
	測定装置	ロードセル（容量：100kN）、電気式変位計（容量：25mm、感度：500×10 ⁻⁶ /mm、非直線性0.1%R0）及びデータロガー					
	参 照：図-3 (試験方法)						

試験結果	試験体		基礎相当材ひび割れ発生時		最大荷重時		破壊状況
	記号	番号	上面及び側面		荷重 (P _m) kN	変位 (δ _m) mm	
			荷重 (P _{c_i}) kN	変位 (δ _{c_i}) mm			
試験結果	RA-250 -1~3	1	41.2	4.0	41.2	4.0	・基礎相当材からのアンカー ボルト抜け出し
		2	39.2	3.6	39.6	4.2	
		3	36.0	2.1	39.0	2.9	・アンカーボルトに沿った 基礎相当材の割れ
		平均	38.8	3.2	40.0	3.7	
	Z-250 -1~3 参考 (受付第 05A2785号)	1	20.2	0.6	34.8	14.1	・基礎相当材からのアンカー ボルト抜け出し
		2	18.3	0.3	34.2	18.9	
		3	14.1	0.3	36.2	16.3	・アンカーボルト破断
		平均	17.5	0.4	35.1	16.4	—
(注) 表中の変位 (δ) はアンカーボルトの上下方向絶対変位を示し、次式により算出したものである。 $\delta = (DG1+DG2) / 2$ 参 照：図-4 (荷重-変位曲線) 写真-1~写真-3 (破壊状況)							
コメント	RA-250の最大荷重(40.0kN)は、Z-250の最大荷重(35.1kN)に対して、1.14倍高い値となった。 (注) RA-250及びZ-250の基礎相当材の試験時圧縮強度は、19.7N/mm ² であった。						
試験期間	平成18年 1月27日						
担当者	構造グループ 試験監督者 川上 修 試験責任者 川上 修 試験実施者 林崎正伸, 伊藤嘉則						
試験場所	中央試験所						